

えんがわ通信

「えんがわ」は、被災者の仕事に関する支援を行う施設です。その名前には、人と人とのつながりが生まれ、「輪」が「輪」のようになって広がってほしいという願いが込められています。

第3号 2012年3月

発行 ＊一般社団法人ペソナルサポートセンター
〒950-0222 仙台市太白区あすと長町4丁目3-20
電話 / 022-398-8747
WEB / <http://www.peisonal-support.org/>

仮設住宅の夜 優しく灯す キャンドルプロジェクト

コミュニティ
安心見守り

感謝の気持ちを込めて
一般社団法人「パーソナルサポートセン
ター」(PSC)は東日
本大震災の発生から1年
を迎えた3月11日にあわ
せ、手作りキャンドル
を製作し、同法人が見守
りをしている仙台市内の
仮設住宅入居者にプレゼントした。同法人は今後
「手仕事プロジェクト」
を立ち上げる方針。

キャンドルは3月上旬
仮設住宅入居者の「見守
り」をする同法人の安心
見守り協働事業部の縦支
援員ら約50人が東京都三
鷹市の化粧品製造販売会
社「あきゆらぎ美善堂」



乗らかな光の中で、震災から1年目の夜を過ごした仮設入居者

の社員岡部祐加子さんの
込めて仮設住宅の入居者
が講師となり、仮設住宅
日午後、縦支援員ら有志
震災から1年となった11
町1丁目の仮設住宅では
に贈った。

そのうち、青葉区川内

シヨップを開催。参加者
は色づけしたろうを溶か
し、型に流し込むなどし
て、一つひとつ丁寧に仕
上げた。

完成後、キャンドルに
火が灯されると、集まっ
た仮設住宅の入居者は、
柔らかな光を見つめなが
ら、それぞれの過ごした
「一年」を振り返った。

世話人会のメンバーの一
人、佐々木津也さんは
「普段、イベントなどに
あまり参加しない入居者

の方々も含め、みんな
集まって作業し、そして
キャンドルを見ることが
できて、本当にうれ
しかったと話した。



一つひとつ丁寧にキャンドルを作る参加者

PSCコミュニティ
開始予定で、市のお知
りせなどを封筒に入れ
部は4月中旬に実施す
る仙台市のお知らせ
「復興定郵便」を封入
回、計3日間行い、参
加者には、1回あたり
2000
円相当の
商品券を
対象は
東日本大震災発生時に
謝礼として支払う。申
し込みはCWS「えん
がわ」022(398)
あすと長町のコミュニ
ティ・フリクサロン(C
WS)「えんがわ」で
4担当・千葉まで。

封入手伝い募集

被災者が復興する中
相談などに取り組みまし
た。市内の中小企業
市産業振興事業団が今
地元中小企業の今後を
考えたとき、今雇用して
いる従業員の方々に、こ
の先もお給料を払い続け
る事ができるかは不透
明な状況です。そうした
中で今後、新たな失業者
のレベルに回復するのが
難しい状況にあると考え
ているからです。

「黒子」として、復興
に何が有効な手段かを考
え、地元中小企業、とし
て求職者の支援にこれか
らも、積極的に取り組ん
でいきたいと思っています

算が執行されたのは5月
飲食チェーンの多くが、
シャッターを締め切っ
ている中、仙台朝市や中心
市街地の商店街は、被災
した方々に売れるものを
何でも提供しようという
頑張っています。

震災直後、中央資本の
市街地の商店街は、被災
した方々に売れるものを
何でも提供しようという
頑張っています。

被災地を語了②

何が有効な手段かを考え
「黒子」として地元中小企業、
求職者を支援したい。



仙台市産業振興事業団
総務部管理課
関 憲二郎 課長

震災直後、中央資本の
算が執行されたのは5月
飲食チェーンの多くが、
シャッターを締め切っ
ている中、仙台朝市や中心
市街地の商店街は、被災
した方々に売れるものを
何でも提供しようという
頑張っています。

震災直後、中央資本の
算が執行されたのは5月
飲食チェーンの多くが、
シャッターを締め切っ
ている中、仙台朝市や中心
市街地の商店街は、被災
した方々に売れるものを
何でも提供しようという
頑張っています。

仮設で調査実施 「必要な施策」を提言

PSC

PSCは2月下旬か
ら、仙台市内の仮設住
宅に入居している被災
者の今後の居住と就労
に関するアンケート調
査を実施している。

4月上旬ごろまでに
調査結果を公表するほ
か、今後、有識者や行
政などの意見を踏まえ、
被災世帯が生活再建の
ために必要とする施策
などについて、提言を
する方針。

調査は厚生労働省の
「社会福祉推進事業」の
一環で、PSCが本年度
委託を受けて行ってい
る。

2月下旬に仙台市内
のプレハブ仮設や民間
の賃貸住宅などに住む
約5000世帯を対象
にアンケート用紙を配
布。アンケートでは、
今後の生活の見通しや
東日本大震災前後の仕
事や収入の状況など、
約40項目について質問
した。

集まったデータは、
宮城大や大阪市立大の
教員、仙台市、大阪府
豊中市の職員ら14人で
構成する委員会が分析
する。

同時に、阪神大震災
後の福祉や就労支援に
おける先進的な取り組み
を有識者が研究した
り、全国から情報を集
めたりして、今後の被
災者の住まい方や仕事
の分野に関わる「ある
べき施策」を提言する。

「えんがわ」な人々③

鈴木智子(すずきともこ)



被災地支援に携わろうと
昨年5月に仙台に移り住ん
できました。

当時、よく立ち寄った道
の駅では、いままでに見た
こともない春野菜や山菜が
ずらりと並び、なんて豊か
な土地だろうと思ったのが
東北の最初の印象です。

「えんがわ」では主に収
入を得るための内職の企画
や体験イベントの運営を担
当しています。

最初は知らない同士でも
ちよっとお喋りするど、実
は故郷が同じだったり、ご
近所だったり。次々に新
しいつながりが生まれてい
ます。

私自身も、初めての土地
で不安がありました。が、「え
んがわ」でたくさんのお出
会いができます。みなさんと
なっています。みなさんと
お会いできる日を楽しみに
しています。



「えんがわ」までのアクセス

JR長町駅・地下鉄長町駅
から徒歩7分

イベント情報(4月)

キャリア等に関する個別相談

専門のカウンセラーによる、職業や進路・キャリア等に関する個別相談(1人50分)を行います。(就職のあつせんではありません)

- 日時:4月25日(水) 10:00~18:00
- 場所:AERビル5階情報・産業プラザ
- 対象:学生・求職中の方、在職者(30代まで)
- 定員:28名(抽選)
- 申込締切:4月18日(水) 必着
(締切後に応募者全員に決定通知書をお送りします)
- 申込方法:郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、郵便・FAX・Eメールでお申込みください。

※雇用保険の失業認定の際に求職活動実績として申告できます。

- お問合せ先:(公財) 仙台市産業振興事業団 〒980-6107 青葉区中央1-3-1
- TEL:022-724-1212、FAX:022-715-8205
- Eメール:koyoushien@sip.city.sendai.jp

のびすく仙台

子育てを応援する施設です!好きなときに好きなだけ遊んでいけるオーブンの空間です。入場料等はありません。どんなところか、まずはお子さんと一緒に遊びにきてください。

- ◎利用できる人 主に乳幼児とその家族
- ◎住所 仙台市青葉区中央2丁目10番24号(仙台市ガス局ショールーム3階)
- ◎問い合わせ TEL:022-726-6181 FAX:022-214-5071
- ◎開館時間 9:30~17:00 (託児室は16:30まで)
- ◎休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始

のびすく仙台「やさしいフラ」(申込み不要)

ステキな音楽にあわせて、フラを踊りませんか?初めての方でも踊れる内容です。お子さんと一緒にどうぞ。

- 日時:4月6日(金) 10:30~11:30
- 講師:鈴木美香さん(インストラクター)
- 場所:のびすく仙台こどもひろば
- 対象:乳幼児のママ

*動きやすい服装で参加ください。

託児スタッフ養成講座参加者募集

専門家が基礎知識を教えます。受講後、仙台市内の施設で託児スタッフとして12時間の実習を行い、市内の託児施設で活動したり、保育士の資格取得を目指したりするためのプログラムを用意しています。

- 日時:平成24年3月27日(火)・29日(木) 30日(金) 10:00~16:00
- 場所:エルソーラ仙台大研修室(アエル28階)
- 定員:70名
- 託児:必要な場合は相談に応じます。
- 参加費:無料
- お申し込み:パーソナルサポートセンター 080-4426-9824(担当/千葉)

ピースーシュー1974個完成

PSC手作りプロジェクト



和やかな雰囲気でのびすく仙台で完成させた参加者

仙台市内の被災者らを対象に昨年12月から取り組んできたぬいぐるみ「ピースーシュー」の製作完成イベントが2月29日、仙台市太白区のカムニティ・クワイアで、これまで製作しており、これまでにぬいぐるみは230個、月収で11万5000円を手にした。

29日の完成イベントは、袋詰めなど19人が、被災者ら

製作今後も継続決まる 第2弾今月下旬に始動

「メソバ」同士の絆が深まった。女性は家庭の事情とか家庭の仕事などがあり外に出て働くのが難しい人も少なくない。こういった内職の仕事は今後も、安定した仕事の一つとして提供し続けることができれば、うれしい」と話す。

アイデンティティ・プロジェクトが製作するアイデンティティ・プロジェクトは「I♥NY」のデザインで知られるミルトン・グレイサーの仕事が、震災後の被災者の仕事を生み出す。アイデンティティ・プロジェクトが製作するアイデンティティ・プロジェクトは「I♥NY」のデザインで知られるミルトン・グレイサーの仕事が、震災後の被災者の仕事を生み出す。

「メソバ」同士の絆が深まった。女性は家庭の事情とか家庭の仕事などがあり外に出て働くのが難しい人も少なくない。こういった内職の仕事は今後も、安定した仕事の一つとして提供し続けることができれば、うれしい」と話す。

アイデンティティ・プロジェクトが製作するアイデンティティ・プロジェクトは「I♥NY」のデザインで知られるミルトン・グレイサーの仕事が、震災後の被災者の仕事を生み出す。



http://www.personal-support.org/

これからも、じっくりと支援していきたい」と話している。PSCは2月中旬、インターネット上にホームページ(HP)を開設した。法人概要のほか、安心安全な商品の作成、作業のやりやすさ、後、就業に関するイベント情報などについても掲載するなど、内容の充実を図る。アドレスは <http://www.personal-support.org/>

「えんがわ」のつばやき

元気を与えることができる日

「久しぶりに娘と会えた気分だわ」。何十年かぶりの再会を喜ぶように抱きしめ合う。元気でいることを、日々の「見守り」をする仕事から「えんがわ」の仕事に変わって5ヶ月が過ぎた。それでも時折、仕事で仮設住宅に足を運ぶと、声をかけてくれる人がたくさんいる。そんな方々の笑顔を見ると、日々の辛い出来事や疲れが一気に吹き飛ぶ。

震災で実家が壊れ、数カ月後に被災前から勤めていた職場を去らなければならなかった。しかし、「あまたに会えない日は生きた心地がしない」「大切な友達」と異動前、あまたたい言葉をかけてくれた入居者の方たちは今も、私にとってとても大切な存在だ。同時に今でも、笑顔でいてほしいという気持ちは変わらない。元気をもらった「あの時」のように、いつか私も元気を与えることができたらと思っている。そして、これから出会うだろう「誰か」にも、答えはまだ見つからないが、これまで、元気をくれた方々から学んだ多くのことを活かし、成長していきたいと思う。それが私の道標。(垣)